

# 平成28年度博物館施設評価集計シート（3月末最終）

施設名 歴史と民俗の博物館

## 1. 数値目標による評価

### (1) 全館共通項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	151,010	人	未達	基準値: 145,924人 目標参考値: 151,002人	
				145,414	人			
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	43,990	人	未達	基準値: 38,437人 目標参考値: 43,982人	
				39,371	人			
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	790	件	達成	基準値: 755件 目標参考値: 781件	
				879	件			
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	15,061,000	円	達成	当該年度予算計上額	
				16,563,901	円			

### (2) 館別独自項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	特別展・企画展	入館者	特別展・企画展の入場者数	10,946	人	達成	各特別展・企画展の目標入館者数の合計	
				26,035	人			
2	学校利用	出前授業	出前授業の実施校数	25	校	未達	昨年度実績による	
				15	校			
3	学校利用	団体利用	学校団体の博物館利用校数	82	校	達成	昨年度実績による	
				89	校			
4	資料管理	資料点検	年間の点検資料数	10,000	点	達成	資料点検年次計画による	
				19,815	点			
5	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	179	件	達成	昨年度実績による	
				206	件			
6	利用状況	情報提供サービス	年間HPアクセス件数	306,839	件	未達	昨年度実績による	
				274,391	件			
7	満足度	常展アンケート	アンケートでの常設展満足度	86	%	未達	昨年度実績86%	
				64	%			
8	満足度	企画展・特別展アンケート	アンケートでの企画展・特別展満足度	88	%	未達	昨年度実績88%	
				83	%			

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>①利用者サービス向上の取り組み。                  ②調査研究事業としては、文化遺産活用調査事業として『無形民俗文化財調査研究事業』『巡り・廻りの民俗行事』と、『歴史遺産調査研究事業』『新編武蔵風土記稿』総合調査』を実施。                  ③SNSを活用した広報の充実。                  ④民間団体・市町村等との連携を図った特別展の開催。                  ⑤埼玉県の歴史や民俗に関して新たな情報を発信する展示の開催。                  ⑥資料の所在確認と総合的有害生物管理(IPM)の実施。</p>
事業の実施状況と過程	<p>①全館体制で「魅力アップ活動」を念頭に置き、利用者サービスの向上を目指し下記を実施。                  ・職員による車イス館内巡回及び「車イス介助及び安全な利用方法」の研修、大宮公園側からの導入路として南門の開放、「健康長寿」を応援する事業として「思い出のスイッチー懐かしの昔遊びー」の実施(6/10、1/28)。                  ②10月からFacebookの運用を開始。                  ③・特別展「高麗郡1300年」では飯能市教育委員会・日高市教育委員会と共催、一般社団法人高麗郡1300年記念事業委員会と協力するなど関連機関との連携を強化。                  ④ユネスコの無形文化遺産登録に合わせ、季節展示室において「国指定の都市祭礼 秩父祭・川越祭」(12/6～3/5)と題したパネル展を開催。                  ⑤年度当初に年間計画を作成し、月2回資料の所在確認を行いつつ、総合的有害生物管理(IPM)作業も着実に実施。</p>
事業の成果	<p>・特別展「高麗郡1300年」は地元である日高市教育委員会・飯能市教育委員会と共催し、さらに高麗神社で共催事業を行った。また特別展「徳川家康」では、家康ゆかりの川越・仙波東照宮の特別公開において、当館学芸員が出向き、解説を行った。こうした地元と連携した事業を実施することで、当館への来館者数も増加し、2本の特別展では図録も完売し、収入額が予算計上額よりも約150万円上回った。                  ・広報活動に関しては、2本の特別展の会期約1か月前と会期中の2回記者発表を行うことにより、マスコミに取り上げられる回数が増加した。また、特別展・企画展の展示の内容により広報先を厳選して広報活動を行った点も、集客に結び付いたと考えられる。                  ・学習支援事業に関しては、昨年度に比べ出前事業は減少したが、学校団体の利用が増加し、平成26年度とほぼ同数に回復した。また、国内だけでなく、台湾からの教育旅行も受け入れており、今後も増加が見込まれる。                  ・資料の保存・管理に関しては、年間を通じて計画的に全職員でIPMと資料確認作業を行っている。今年度も作業は順調に進み、安定した保存環境を維持することができた。</p>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	35人 (24人)	総予算額 (人件費を除く)	102,442,000	職員一人あたりの県民人口	20.7万人
収蔵資料総点数	123,886点 (H27.3.31 現在)	事業経費 (上記の内数)	71,360,000	利用者一人あたりのコスト (平成27年度)	760円
平成27年度 収集資料点数	778点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	15,061,000 7,396,100	県民人口に対する利用者割合 (平成27年度)	2.07%

(注)平成28年度4月1日現在の埼玉県推計人口は 7,268,405 人である

2. 全館共通項目チェックリスト

歴史と民俗の博物館

評価基準

完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか	A	資料収集方針
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか	A	収集点数 22件532点
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか	A	埼玉県関係資料
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	A	巡り・廻りの民俗行事調査
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	A	作成済
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	A	資料評価会議開催
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか	A	収蔵資料管理台帳による
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか	A	同上
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し管理しているか	A	同上
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか	A	同上
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収蔵資料管理要項
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	IPM委員会の開催(年2回)
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	IPM研修の実施(月2回)
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	IPM及び空調管理等
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	A	月2回実施
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	月1回実施
	⑦ 資料の殺虫殺菌処理を適切に行っているか	A	燻蒸・忌避剤散布の実施
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	通年測定及び記録化の実施
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	適正照明具の使用、資料別光度測定
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	月2回資料点検を実施
	⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	月2回のIPM作業・資料点検時等に確認
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	A	刀剣手入れ等
	⑬ 借用資料・寄託資料の更更新手続きは適正に行われているか	A	承諾書等の定期的更新を実施

項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
資料の保存管理	⑭	資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	収蔵資料データベース
	⑮	収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	収蔵資料管理要項による
	⑯	収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰	収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	①	収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	資料特別利用、資料館外貸出規定等
	②	収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	A	申請書等のHP公開
	③	収蔵資料を展示に活用しているか	A	活用点数 1,771点
	④	収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	貸出点数 18件65点
	⑤	収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	利用点数 137件399点
	⑥	資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	25年3月公開
	⑦	収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	適宜更新
常設展示	①	資料の展示環境を適切に管理しているか	A	空調・露光・設置・観覧者との接触等
	②	展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	視認性を考慮したサイン・パネルの設置
	③	展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	監視員・警備員の配置
	④	展示情報を適宜修正・更新しているか	A	適宜実施
	⑤	展示設備等を適宜点検しているか	A	開館・閉館時の巡回点検
	⑥	展示ガイド等を作成しているか	A	解説リーフレットを充実させることに移行
	⑦	解説リーフレット等を作成しているか	A	展示室ごとに作成、配布
	⑧	展示解説等を適宜実施しているか	A	ボランティアガイド 学芸員展示解説
	⑨	観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	来館者アンケート
	⑩	アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	アンケートの集計・分析により適宜対応
	⑪	県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	HP、月別イベントチラシ等
学習支援事業	①	事業情報を利用者に広く発信しているか	A	HP、SNS、月別イベントチラシ等
	②	多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	電話、葉書、電子申請
	③	多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	A	体験メニュー及び特別体験メニュー
	④	参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	体験ボランティアの養成・配置、外部講師による講座の実施

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
学習支援事業	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	用具の管理及び注意喚起
	⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	参加者アンケートの実施
	⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	A	既存プログラムの改良改善、新規開発の調査等を実施
	⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	学び文庫
	⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	学芸員実習、インターンシップ
県民との連携・協働	① ボランティア制度を導入しているか	A	展示解説ボランティア・体験ボランティア
	② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要綱、活動細則
	③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要綱、活動細則
	④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	ボランティア研修会、定例会の開催
	⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	A	HPで公開中
	⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	友の会共済事業、ゆめ・体験ひろばイベント
	⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	A	大盆栽祭り、区民祭り
調査研究活動	① 調査研究テーマを定めているか	A	要覧等に明示
	② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	A	文化遺産活用調査事業の実施
	③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	学芸員研修体系に基づき実施
	④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	無形民俗文化財・歴史遺産の調査、紀要執筆他
	⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	研修への参加等
	⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	無形民俗文化財・歴史遺産の調査、紀要執筆他
	⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	紀要執筆他
	⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	ミュージアムフォーラム、ミュージアムカレッジ他
	⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	歴史民俗講座、紀要執筆
	⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	県政出前講座他
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	優先順位と予算をもとに検討
	② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	テグス留め、ネット掛け他
	③ 危機管理マニュアルを整備しているか	A	28年4月改訂
	④ 防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	消防訓練、地震訓練及び救命講習を実施
	⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	A	無料スペースに設置
	⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車椅子8 ベビーカー2

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考	
施設・アメニティー	⑦	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設設備点検の実施
	⑧	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用2台分
	⑨	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	A	エレベーター、階段昇降機の配備
	⑩	利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	A	ピクトサインの採用、サインの改修
	⑪	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	B	一部対応しているが、未着手箇所あり
	⑫	利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	夏季の延長を実施
	⑬	便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	団体のバス利用は臨時駐車場を確保
施設の利活	①	施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	管理規則、様式第3号
	②	施設利用のための情報を公開しているか	A	館HPに利用案内を公開
	③	施設を一般の利用に提供しているか	A	講堂・講座室
	④	施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	講堂・無料休憩コーナー
	⑤	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	A	ミュージアムヴィレッジ大宮公園他
	⑥	地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	各種スタンプラリー実施

3. 館別独自項目チェックリスト

歴史と民俗の博物館

評価基準

完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A～C)	備考
特別展・企画展事業の実施	① 中・長期的な展示計画を策定し、特別展・企画展を実施しているか	A	中期計画を策定
	② 県民ニーズや時代の要請を踏まえて、時宜を得た特別展・企画展を開催しているか	A	アンケートの要望を参考
	③ 調査研究成果の蓄積や、最新の学術情報を反映した特別展を開催しているか	A	新出資料の展示、記念講演会開催
	④ 全国の博物館や文化財所有者との連携による特別展を開催し、県民に日本の優れた文化遺産を積極的に公開しているか	A	夏季特別展 秋季特別展
	⑤ 模範的、先進的な展示手法を用いた特別展を開催しているか	A	適正な展示環境の確保、産業廃棄物の縮減
	⑥ 展示観覧者アンケートにより満足度・ニーズを測定し、以後の展示事業に活かしているか	A	展覧会ごとに観覧者アンケートを実施
	⑦ 展示観覧者の目標数を設定し、その達成に努力しているか	A	展覧会ごとに設定
	⑧ 展示内容に則した弾力的な広報活動を実践しているか	A	展覧会ごとに広報先を選定
中核的施設としての活動	① 勧告・承認施設として資料を公開しているか	A	国宝太刀・短刀、国宝慈光寺経、重文熊野神社境内古墳出土品他
	② 公開承認施設として資料を公開しているか	A	重文東山道跡出土瓦塔・瓦堂、重文三十六歌仙額他
	③ 県内の博物館職員を対象とした研修会・見学会等を実施しているか	A	11月に「刀剣手入れ」研修を実施
	④ 県内の博物館施設を対象とした協力・支援事業を実施しているか	A	埼玉博連会長館及び事務局
	⑤ 県外博物館施設との相互協力事業を実施しているか	A	夏季特別展 秋季特別展
	⑥ 県立博物館施設相互の連絡調整を図っているか	A	総合調整推進会議
ゆめ・体験ひろばの運営	① 地域の文化資源を活用した博物館ならではのプログラムを提供しているか	A	ものづくり工房体験メニュー、特別体験メニュー
	② 埼玉の歴史や文化の理解につながるプログラムを提供しているか	A	ものづくり工房体験メニュー、特別体験メニュー
	③ いつでも、手軽に参加できるプログラムを提供しているか	A	ものづくり工房体験メニュー
	④ 世代間交流ができるプログラムを提供しているか	A	お囃子体験教室、ペーゴマ教室他
	⑤ 常設展示室と連携したプログラムを提供しているか	A	展示室ワークシートの実施
	⑥ 多様なマンパワーが参画・協働できるプログラムを提供しているか	A	昭和の原っぱイベント他
	⑦ 地域と連携したプログラムを提供しているか	A	特別体験事業
	⑧ 学芸員の専門性をプログラムに反映しているか	A	ものづくり工房体験メニュー
伝統の公開・記録・継承	① 県内の民俗文化財に関する資料の記録化に取り組んでいるか	A	巡り・廻りの民俗行事調査
	② 展示や公演をととして県内の民俗文化財を県民に公開しているか	A	「国指定の都市祭礼 秩父祭り・川越祭り」の展示
	③ 県内の民俗文化財の継承につながる講習会等を実施しているか	A	民俗芸能講習会「秩父屋台囃子」
	④ 伝統文化継承者、伝統技術保持者の支援・育成に努めているか	A	文化振興基金助成審査委員

平成28年度 博物館施設 総合評価 (3月末最終)

施設名 歴史と民俗の博物館

		達成	未達
全館共通	数値目標による評価	2	2
各館独自	数値目標による評価	4	4

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	89	1	0
各館独自	チェックリストによる評価	26	0	0

自己評価総括

評価	<p>①県立館としての立ち位置に基づいた展示を企画し、調査を行い、「埼玉ならではの価値」を発見し、展示事業として広く県民に紹介し、展示図録により情報を発信した。2回開催した特別展の図録は、どちらも完売。</p> <p>②HPとSNS,Face book による情報発信に加え、特別展「高麗郡1300年」では地元日高市や高麗神社等関係団体との連携や韓国文化院HPへの掲載、特別展「徳川家康」では全国東照宮連合会加盟神社にポスター・チラシを送付するなど、展示の内容により広報先を変えて広報活動を行った点が、集客に結び付いたと考えられる。</p> <p>③2回開催した特別展に関しては、会期約1か月前と会期中の2回記者発表を行うことにより、マスコミに取り上げられる回数が増加した。</p> <p>④特別展・企画展観覧者数のうち、特別展2回の有料観覧者数は目標値(予算の計上額)を上回っており好調であり、観覧料収入の増加にもつながった。</p>
課題	<p>①特別展、企画展を開催していない時期の集客。</p> <p>②出前授業、出前講座ともに減少。</p>
対応の方向	<p>①常設展のみどころに関する積極的な広報。</p> <p>②出前授業は減少したが、学校団体は昨年度より増加。</p>

## 評価結果に対するコメント

### 1. 全体に係る評価

各館協議会・委員会の意見	<p>【委員からのご意見・当館の改善点⇒】</p> <p>○ご意見: 常設展では、新たな研究を踏まえて展示替えを行ってほしい。 ⇒改善点: 月例の展示替えで対応するよう努めているが、2020オリンピック・パラリンピック等の開催に向け、各展示室ごとに設置している大判解説パネル等を更新していく予定である。</p> <p>○ご意見: 外部資金を活用してほしい。 ⇒改善点: 外部資金に関しては、平成28年度は5本申請したうち、2本が採択され、1本は一部採択であった。来年度以降も、積極的に外部資金の活用を図っていきたいと考えている。</p> <p>○SNSを活用した広報を行ってほしい。 ⇒改善点: 従来のTwitterでの情報発信に加え、平成28年度10月からはFacebookでも情報を発信している。これは、Twitterが30代以下、Facebookが40代以上の利用者が多いことによる。また、当館では60代以上の観覧者が約50%を占めるため、紙媒体による広報も併用することにより、すべての世代に情報を発信するよう心掛けている。</p>
--------------	---

### 2. 全館共通項目に係る評価

評価小委員の意見	<p>【評価できる点】</p> <p>○特別展・企画展での有料観覧者数が目標値を上回ったのは、広報活動と特別展・企画展の成果が相乗効果をもたらしたとして評価できる。</p> <p>○博物館が担う使命を十分に遂行していると評価できる。</p> <p>○全館体制で利用者サービスの向上に努め、博物館に隣接する大宮公園との接続を実現したこと、来館者の多様性を尊重し、それに対応する職員研修を実施したことは、顕著な活動成果であると評価できる。</p> <p>○特別展開催にあたって、地元と連携して展示の周知に務めたことで、県民を中心とした社会との協働の幅を広げたことについても顕著な活動成果であると評価できる。</p> <p>○全館共通項目チェックリスト「資料の収集④・⑤」については、無形民俗文化財調査研究事業「巡り・廻りの民俗行事調査」の報告書を作成している。次世代に伝統行事を引き継ぐためには、学芸員による丹念な取材と記録化という地道な調査が不可欠と考える。 今後もこうした調査を継続してほしい。</p> <p>【改善を促す点】</p> <p>○「埼玉ならではの価値」を見いだす本館のスタンスに照らして、調査研究の成果を常設展にどのように反映させるのか、さらなる検討が必要と考える。</p> <p>○常設展の展示替えを実施した際には、「今月の作品」「新発見！ここをチェック！」などのタイトルをつけ、さらに作品の魅力を引出す工夫をするとともに、ホームページなどで展示替えをアピールしてはどうかと考える。</p> <p>○観覧者に補助的な展示キャプションとして地図を取り入れるなど、わかりやすい展示となるよう工夫してほしい。</p>
----------	---